



御在所の風

10
October

志布志市立田之浦小学校
学校だより 文責：榊 宏三
令和2年10月26日発行

教育目標 「心豊かで、たくましい体もち、自ら学ぶ『田之浦の子』を育成する」
 校訓 「やさしく（キラキラ） かしく（ハキハキ） たくましく（キビキビ）」
 めざす子どもの姿 「思いやりの心もち、相手を尊重できる子」
 「自ら学び、考え、粘り強く学習を続ける子」「命の大切さを知り、自ら鍛える子」



校長室より

思いやりの心をもつ子どもたちに！！

～ ゲームとのつきあい方 ～

校長 榊 宏三

もうすぐ11月、肌寒さを感じる季節になりました。いよいよ秋本番です。木々も紅葉に染まり始めます。また、読書の秋、スポーツの秋など、何をするにもいい季節です。この過ごしやすい時期が長く続けばいいのですが、おそらくあっという間に冬本番になってしまうのでしょうか。短い期間かもしれませんが、〇〇の秋をしっかり頑張りたいと思います。

さて、田之浦小学校の校訓として次の3つのことを掲げています。

「 やさしく（キラキラ）、かしく（ハキハキ）、たくましく（キビキビ） 」

学校全体の傾向からは、3つの目標に向かって努力できています。しかし、「たくましく（キビキビ）」という目標には、最後までやり抜くという意味もあるのですが、子どもたち一人一人を見ると、時代の流れなのか、我慢できない子ども、すぐに諦めてしまう子どもが増えているように感じます。本校の子どもたちばかりではありません。その原因の一つとして考えられるのがゲームです。大人でものめりこんでしまうほど今のゲームは飽きないように工夫されています。一度やりだすと、とめどなく続けてしまうという傾向があります。それが行き過ぎるとゲーム依存症という病気になってしまいます。

先日、教育講演会に参加しました。ゲームやスマホに関する内容でした。その講師からゲームやスマホをやり過ぎることによって、学習や脳の発達などに影響があるというものでした。ある程度の時間を決めて、「ああ面白かった。続きは、また明日やろう。」というように区切りをつけることができれば大丈夫なのですが、寝る時間も惜しんでやり続けてしまうという状態は、もうすでにゲーム依存症になっている可能性があります。頭の中の大部分をゲームが占めてしまっているので、学習に集中できなったり、学校に行くのが嫌になる状態にまでなったりします。ゲームをしていないといらいらしてくる、突発的に暴力的な行動をとってしまうなどの症状もでてきます。ゲームができていれば精神状態は安定するのですが、ゲームのできない要素があると精神状態は不安定になります。このような状態になると、本人が一番しんどいです。

そうなる前に、周りの大人が子どもの状態に気付いてあげて、少しずつゲームから離れることができるように、また、ゲームとうまく付き合っていくように環境を変えていってあげる必要があります。ぜひ、ご家庭での子ども様子を見ていただき、よりよい環境をつくっていくためにお話いただければありがたく存じます。今月の家庭学習強調週間の様子でも、家庭によってはメディアとのかかわる時間が少なくなっています。親子で話し合った成果だと考えます。このいい季節、読書やスポーツなど、ゲームではないことに興味をもつことができるように取り組んでいきたいものです。



pixta.jp - 28199002